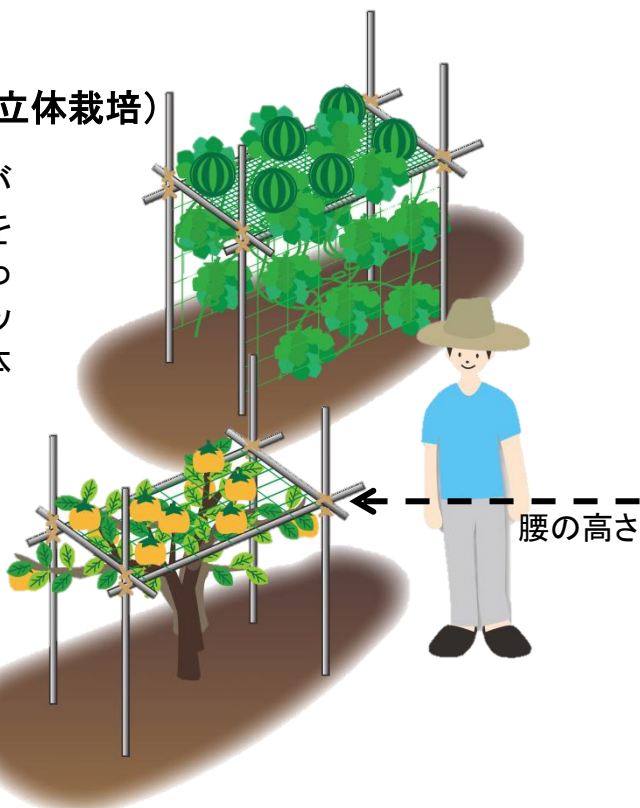


営農管理

丈夫な防護柵で囲っても、作物のレイアウトによっては、柵の効果を十分に発揮できません。栽培の工夫によって、鳥獣被害を防ぎやすくするための技術を紹介します。

◇被害を受けにくい野菜栽培(スイカ、カボチャの立体栽培)

スイカやカボチャなどの作物は、伸びたつるが柵の外側にまで広がって実をつけ、野生動物を誘引することがあります。直感パイプなどで作った立体的な柵に、実の重みに耐える強度のネットを張って、そこにつるを誘引して実らせる立体栽培にするとコンパクトに栽培できます。



◇果樹の低樹高栽培(低面ネット栽培)

カキなどの果樹を低樹高に栽培することで、防鳥ネットなどの設置が容易になって、守り易くなります。また、脚立を用いた収穫や剪定等の危険作業の労力を軽減できます。

◇草刈りの工夫で冬季の餌量を低減

果樹園などでの最終の草刈り時期を通常の9月下旬から11月以降にずらすことによって、シカなどの冬季の餌としての利用価値を大きく低下させることができます。



緑草の多い2月の果樹園(出雲市)



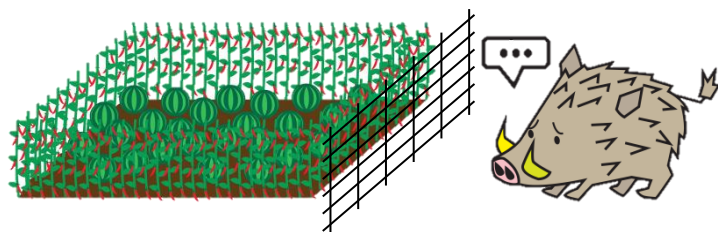
8月下旬に除草



10月下旬に除草

◇嗜好性の低い農作物の栽培

被害を受けやすい農作物は畑の中央で栽培して、嗜好性の低いトウガラシやシソなどを畑の周囲に植えると、動物への目隠し効果が期待できます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科：鳥獣対策科

問い合わせ先：0854-76-2025（代表）

E-mail：chusankan@pref.shimane.lg.jp